

# ちゃんめろだより

第51号 2018.3.1

\*\* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \*



白馬村・小谷村では、「ふきのとう」を 方言で『ちゃんめろ』と言います 発行:長野県姫川砂防事務所(北安曇郡小谷村千国乙10307-3/電話0261-82-3100)

## 当所発注の建設工事等で優れた取組を行った 4名が優良技術者として表彰されました

長野県は2月7日(水)、県庁講堂においてその成績や取組が特に優れている技術者を表彰する「優良技術者表彰」を行いました。

県全体で93名の技術者が表彰され、そのうち、姫川砂防事務所の発注した建設工事等において業務を担当した技術者4名が優良技術者として表彰を受け、受賞者全員が記念撮影の写真に収まりました。

(受賞者は工事部門で(株)北野の高原卓司氏、委託部門で日本綜合建設(株)松本支店の 北澤昌典氏、大成測量設計(株)の高橋宏岳氏、国土防災技術(株)長野支店の山田泰弘氏)





与具撮影 (最前列左端 山田氏 前から3列目右端 北澤氏)

また、表彰式の後、受賞者代表の技術発表があり、当事務所関係で受賞された大成測量 設計株式会社の高橋宏岳氏が小谷村八方岩地区の地すべり対策事業に伴う用地測量業務に おける取組について発表を行いました。

綿密な打合せ、既存資料の的確な把握で関係者との円滑な合意形成ができたこと、新技術(UAVやモバイルPC等)の活用により現場での立会者の安全確保を行ったこと、外業と内業をICT技術でつなぎ工程の短縮ができたことをパワーポイントで分かり易く説明されました。





#### 住民主導型避難体制づくりに取り組んでいます

白馬村飯田地区では住民主導型避難体制づくりの取り組みとして昨年秋から地区懇談会を開き、地区オリジナルとなる防災マップを作成してきました。

平成30年2月14日(水)には第3回目となる地区懇談会を実施し、防災マップの避難経路や避難方法等を確認し意見交換をしました。オリンピック競技開催中で地元出身選手のパブリックビューイング後にもかかわらず、地区の皆様には大勢ご参加いただき有意義な懇談会となりました。今後は作成した防災マップをもとに避難訓練を実施する予定です。







地区懇談会の様子(3班のうちの1班)

飯田地区防災マップ(案)

# 雪崩防止柵の工場検査をしました

新潟県において、白馬村飯田地区で工事をしている雪崩予防柵の材料を検査しました。 検査の結果、不備等は確認されませんでした。

本現場では、新潟県で製作された材料を白馬村へ運搬し、現地で組み立てることで雪崩予防柵を設置しています。雪崩予防柵の支柱の高さは約5.3mで、支柱間隔は約4.5mです。 工場での製作が概ね完了したため、雪が解ける5月下旬頃から現地で作業を行う予定です。





#### 国土交通省砂防部との意見交換会を行いました

長野県治水砂防協会姫川支部は、1月23日(火)、国土交通省と砂防会館において、国土 交通省砂防部との意見交換会を行いました。

支部長である小谷村の松本村長、副支部長である白馬村の下川村長、両村議長など9名の 役員が上京しましたが、新幹線の車中で草津白根山噴火の第一報が入り、噴火への対応に追 われる砂防部の参加が危ぶまれる事態に。

会場変更などの調整の結果、何とか開催することができましたが、続々と入る噴火の情報 に災害の恐ろしさを改めて実感する機会となりました。





砂防会館においては、全国の情勢について砂防部砂防計画課と情報交換。

国土交通省においては、栗原砂防部長に管内砂防関係事業の一層の促進について要望書を提出しました。



この意見交換会は、姫川支部が毎年独自に行っているもので、直接管内の状況を説明できる大変貴重な機会ですので、今後も姫川支部の重要な事業として継続していく予定です。

## 長野県主催のスキルアップセミナーで優秀賞を受賞しました

当所には平成28年3月からドローンが配備され、現地調査や広報のために活用しています。今回、長野県主催のスキルアップセミナーにおいて、「ドローン活用による所内の取り組み」と題して発表したところ、ドローン操縦者を増やす取り組みや安全飛行マニュアルの作成が高く評価され、優秀賞を受賞することができました。

今後も、災害調査や広報活動においてドローンの積極的な活用に取り組みます。





## 年に一度の雪下ろしが終わりました

2月に入り、姫川砂防事務所の雪下ろしを建設業者さんに委託することになりました。





早朝からお越しいただき、大変恐縮です。初めて見る私は、こんな大掛かりだと思っておらずびっくり。下ろした雪も除雪しなくてはならないので、重機2台が入っています。





雪だらけの場所も重機でかき出し、 こんなにきれいになりました。

雪国の生活は、建設業者さんのチカラに支えられているんだな、と改めて 実感する一日となりました。

